

神戸市立小磯記念美術館 特別展 **「東郷青児 美の変奏曲」** ヴァリエーション

2024年10月5日(土)～12月15日(日) 協力：SOMPO美術館



神戸市立小磯記念美術館  
学芸員 多田羅 珠希

万華鏡を覗いたら、視界いっぱい明滅する光の中に、ふと女性の姿が浮かび上がってきた—そのような幻想性をたたえた《パラソルさせる女》は、東郷青児の初期の代表作です。

東郷青児は1897（明治30）年、鹿児島市に生まれました。5歳の時に一家で東京に移り住み、若くして芸術の才能を開花させます。

《パラソルさせる女》は東郷が第3回二科展に出品し、若干19歳にして二科賞を受賞した作品です。デフォルメした人体を色彩の渦の中に閉じ込めた本作は、その前衛的な表現が当時の人々に鮮烈な印象を与えました。

その後、東郷はフランスへの留学を経て、誰もがひとめでそれと分かる抒情的な女性像の様式を確立していきます。新聞への漫画連載、化粧品の広告、菓子のパッケージデザインなども手掛け、東郷の生み出すイメージは広く知られていきました。

《望郷》は、1959（昭和34）年に日本国際美術展に出品された作品です。同展で、一般入場者の投票によって決まる大衆賞を受賞しました。頭にスカーフを被った労働者風の女性が、神殿のような建物が建つ空間の中に描かれています。目を伏せてやや背中を向けた姿は、《望郷》というタイトルと重ね合せると、甘く感傷的な気分を呼び起こします。

東郷は、東京に移る前の幼少期、神戸に住んでいた時期がありました。1930年代には鯉川筋で個展も開催しています。展覧会の宣伝はこう謳っています。「最もシツクでアラモード（筆者註：à la mode 当世風の）の近代婦人美は氏のスマートな画風によつて遺憾なく発揮されます。近代人にとつて見逃せない展覧会でしやう」\*

特別展「東郷青児」では、SOMPO美術館が収蔵する作品約70点を展示します。神戸にも縁ある東郷の画業を、この機会にぜひご覧いただければ幸いです。

\*『ユーモラス・ガロー』（神戸画廊発行）第20号 1933年



東郷青児 《パラソルさせる女》1916年  
油彩・キャンヴァス 66.1×81.2cm  
SOMPO美術館（一般財団法人陽山美術館より寄託）  
©Sompo Museum of Art, 23020



東郷青児 《望郷》1959年  
油彩・キャンヴァス 116.1×90.7cm  
SOMPO美術館  
©Sompo Museum of Art, 23020

※この特別展はみなと銀行文化振興財団が助成しています。